

コロナ危機下の日本経済の課題

大正大学地域構想研究所教授
小峰 隆夫

- * コロナショックと景気の山・谷の関係
- * 景気の悪化と復調の要因を検証する
- * マクロ的には貯蓄増になった10万円給付
- * 急増した潜在失業率の背景
- * 楽観的になつてきた景気見通し
- * コロナ対策における3つの誤り
- * GOTOキャンペーンの問題点
- * ワクチン接種について考える
- * 岸田政権の政策について
- * コロナ禍による構造変動を点検する



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

皆さんにお目にかかるのは先週からです。先週は残念ながら台風で非常に出足が悪かったんですが、今日はたいへんいいお天気で、これからだんだん正常に復していくと思えますので、これからもよろしくお願いいたします。

本日は小峰隆夫先生においでいただきました。毎年おいでいただいておられますので、改めて細かいご紹介は要らないかもしれませんが、1947年のお生まれで、東京大学をご卒業後、経済企画庁に入省され、エコノミストとして活躍をされてまいりました。現在は大正大学で研究所にお勤めでございます。

日本経済はどうなっているのか。一応、回復軌道にあるとは言いながら、どうも先進国の中

では成績がいちばん悪いほうに属しているというところで、これは言ってみれば、コロナに対する警戒心がどうも国を挙げて強過ぎるというのが私の個人的な考えであります。しかし、経済が順調に回復しなければわれわれの生活も回復いたしませんので、今日はそこをどういうふうにかえたらいいのか、小峰先生に詳しくお話をいただきたいと思えます。

それでは小峰先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

コロナショックと景気の山・谷の関係

小峰 皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました大正大学の小峰です。どうぞよろしくお願いたします。